

何かを学びたいと構想する学生には、学びたいと考えるそれぞれの理由や動機があるはずだ。しかし、すべての学生が、各々の学びに理由や動機を見出すのは容易なことではないだろう。「学びの最適化」には、システムとして学生が学びやすく、選べるものを用意することだけでなく、学生が自身で学びをカスタマイズすることや、目標達成までの学びのストーリーをつくる必要がある。学生がそれぞれの学びの青写真が描けない場合には、教員の意見が大いに役に立つだろう。そうした点で、アドバイザー制は「学びの最適化」の実現を助けるためのもう一つの重要な核となるのだ。

さて、冒頭の話に戻ろう。大学の英文科に入学したころの私の目的はただ「英語を学ぶこと」で、目標は「英語が上達すること」だった。しかし、英語を使う仕事に就くことをあれこれ考えるうちに、「英語教員になること」が新たな目標となった。というよりは、それが目標だと自分に言い聞かせた、という方が正確だったかもしれないが。非常勤講師とはいえ、英語教員となってさらに目標は変わっていった。いつしか目標だった「英語」は手段の一つへと変わっていた。

二十数年前、物事をもっと単純だった。大学選びは、文系か理系かである程度は事足りた。私自身、将来の目標を明確に描かなければならなかった記憶はない。上述した通り、私の場合は、学びながら目標が移り変わったし、(決してあるべき姿ではないだろうが)それでよかった。しかし、今の時代はそうはいかない。自分の将来をなるべく具体的に想像することを求められ続けるのだ。本当は自分の未来をくっきりと思い描くことができる人なんて多くはないのにもかわらず。

とにかく「学びの最適化」の準備は整った。あとは、個々の学生がこのシステムをどう利用するかにかかっている。「自分の意志」や「主体性」、「自由」といった言葉は、学生個人の思いを大切にした表現だ。しかし、一方でこうした言葉には、学生側の責任が伴うことを忘れてはならない。自分の意志や主体性がなければ、何も「最適化」されない。自由に学びを選べるとしても、個別の意見や考えがなければ「最適な」学びとはならない。

学びの最適化のために、私ができるアドバイスがあるとすれば、「対話をしよう」ということに尽きる。自分の意志や主体性を持つために、自由に何かをするために必要なことは、他者に関心を持つことだと思う。自分の殻に閉じこもり、他者の意見に耳を傾けなければ、自分の意志や主体性など育まれない。だから、他者に関心を持って、他者と対話をしよう。そうすれば、きっと自分らしい学びのカタチが見つかるに違いない。

保育実習指導における学生の学びの最適化について考える

准教授 前田 有 秀

1) 本稿の背景

保育士だった私が大学教員を志したのは、良い保育者を養成したいという思いからであった。それに直結する授業が保育実習指導である。2014年に着任し、保育実習担当として保育

現場での指導経験を踏まえ、保育実習生に求められることを取り入れながら、学生の現状に応じて展開してきた。本稿のテーマと照らし合わせるならば、保育実習指導の最適化をはかってきたとも言える。広辞苑によれば、最適化とは『特定の目的に最適の計画・システムを設計すること。プログラムを特定の目的に最も効率的なように生成すること。』とある。本稿の特集である『学びの最適化』を保育実習に行く学生に当てはめてみると、『保育実習の目的を達成するための最も効率的で最適な計画を設計すること』となろう。

保育実習の目的は、『その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟すること』である。なお、保育士資格取得に必要な実習期間は合計30日間であり、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅱ（保育所）全て概ね10日間ずつである。本学の場合、3年次の5月から保育実習Ⅰ（保育所）を行うこととなっており、宮城県内の保育士養成校の保育実習としても、年度内では最も早いタイミングである。そのような事情から、保育実習指導の期間は実質5週間ほどしかなく、かなりタイトなスケジュールである。週1回5コマ分だけでは十分な指導は難しい。よって、本学の保育実習指導は週2コマ（例年10コマ前後）で計画されている。その限られた実習指導の中で、学生が保育実習の目的を達成するためには、表題通り保育実習指導の最適化が求められる。もちろん、実習後の振り返りも重要であることは言うまでもないが、事前にどのような指導が学生にとって有益なものになるのかが私の研究テーマでもある（保育実習指導の在り方、中心活動の実際、保育指導案に関する研究等）。本稿では、近年の本学の保育実習指導計画の変遷を振り返りながら、保育実習指導における学生の学びの最適化について考えていきたい（文脈によっては学生を実習生と表記している場合がある）。

2) 保育実習指導計画の変遷

以下の表は、2016年度～2019年度における本学の保育実習指導計画表の一部（保育所実習Ⅰまでの指導内容）を抜粋したものである。ここでは、特に充実を図ってきた「実習日誌」、「設定保育」、「指導案」の3点に着目する（表中下線あり）。

①実習日誌

実習日誌については、2017年度まで1回の指導時間であったが、2018年度からは2回とした。これは、2018年度のみ保育所実習Ⅰに入るまでにスケジュール的に12回分の指導が可能となったため、実習日誌の事前指導を増やした。実習日誌の目的は、『毎日の実習活動を記録して確認し、実習を効果的に発展させるためのものである。また、実習を通して実践上の課題を明確にし、実習後の学習に生かしていくことである。』とされている。子どもや保育者の姿をどのように捉え、そこから何を学んだのか、自分の課題を見出し次の目標を設定して実習生として成長していく過程が、実習日誌に如実に表れる。内容の良い実習日誌は、実習生評価も高まる。なぜなら、クラス担任以外の職員、主任、園長は実習生の行動を直接見ることが困難であり、実習日誌の内容で実習生を評価する傾向が高まるのである。2019年度の実習指導はスケジュール的に2回分減ることとなったが、実習日誌の指導は2回を維持している。それは、良い日誌を書くことができる実習生を送り出したいからである。

②設定保育

設定保育とは、実習生が担任の代わりに一定時間保育を行うことである。本来は、昼食の時

間までの午前中の時間に、その日の中心活動（制作・運動・ごっこ遊び等）を指すが、実習生が保育を進めていく点においては、手遊びや絵本の読み聞かせなどの短い部分的実習も含めて指導が必要である。そもそも、保育経験が不慣れな実習生が保育を進めていくためには、予め保育の進め方を想定するための指導案が欠かせない。ただ、子どもの前に立って保育を進めていくことの現実を実習前の学生は理解していない現状があった。そのイメージを具体的に持てないから十分な指導案を書くことができないと考えられる。つまり、指導案を書くためには、まず設定保育そのものを理解する必要があると感じ、2017年度から設定保育の指導を始め、現在も重要な指導内容として位置づけている。

実際の指導内容として、朝の集まり等の保育場面を元保育士(私)が実演し、さらにこの保育場面を指導案に書くとどのようになるのかの見本を示し、実際の保育と指導案との関連性を高めている。

③指導案

指導案は、乳幼児期にふさわしい生活・遊びが展開され、より適切な指導が行われるために必要となるものである。特に、実習生が保育を進めていくためには指導案は欠かせない。私の研究によると、指導案は実習生の96.6%が「必要」と回答しており、より内容を理解させるため、2018年度

以降2回に増やしている。1回目は指導案の基礎的な指導を行い、短い集まりの場面の指導案を提出させる。2回目は、添削したものを返却し、より内容の良い指導案が書けるよう改善を

2016年度(平成28年度) 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ計画表

日程	時間割	科目名	指導内容
4月6日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ①	実習の意義と目的、検査等について(腸内細菌検査の説明・容器配布)
	2限目	保育実習指導Ⅰ②	保育所実習について(保健関係を含む)
4月13日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ③	ビデオ「保育所実習の実際」
	2限目		※午後会議のため休み
4月20日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ④	保育所実習Ⅰの内容
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑤	実習日誌について
4月27日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑥	指導案について(腸内細菌検査結果配布・容器配布)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑦	教材研究(特別講義)
5月11日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑧	実習前の準備と留意点
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑨	保育実習Ⅰ(保育所)指導の振り返り
5月16日(月)～5月27日(金) 保育実習Ⅰ(保育所実習Ⅰ)			

2017年度(平成29年度) 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ計画表

日程	時間割	科目名	指導内容
4月5日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ①	実習の意義と目的、検査等について(腸内細菌検査の説明・容器配布)
	2限目	保育実習指導Ⅰ②	保育所実習について(保健関係を含む)
4月12日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ③	保育所実習Ⅰの内容
	2限目	保育実習指導Ⅰ④	実習日誌について
4月19日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑤	設定保育について
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑥	指導案について
4月26日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑦	教材研究(特別講義)(腸内細菌検査結果配布・容器配布)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑧	先輩から学ぶ(ビデオ)
5月10日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑨	ビデオ「保育所実習の実際」
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑩	実習前の準備と留意点
5月15日(月)～5月26日(金) 保育実習Ⅰ(保育所実習Ⅰ)			

2018年度(平成30年度) 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ計画表

日程	時間割	科目名	指導内容
4月3日(火)	1限目	保育実習指導Ⅰ①	実習の意義と目的、検査等について(腸内細菌検査の説明・容器配布)
	2限目	保育実習指導Ⅰ②	保育所実習Ⅰについて(保健関係を含む)
4月11日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ③	ビデオ学習「保育所実習の実際」
	2限目	保育実習指導Ⅰ④	実習日誌について(1)
4月18日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑤	実習日誌について(2)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑥	設定保育について(部分実習)
4月25日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑦	教材研究(特別講義)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑧	指導案について(1)
5月2日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑨	指導案について(2)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑩	保育実習の実際について
5月9日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑪	先輩から学ぶ(腸内細菌検査結果配布・容器配布)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑫	実習前の準備と留意点
5月14日(月)～5月25日(金) 保育実習Ⅰ(保育所実習Ⅰ)			

2019年度 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ計画表

日程	時間割	科目名	指導内容
4月3日(水)	3限目	保育実習指導Ⅰ①	実習の意義と目的、検査等について(腸内細菌検査の説明・容器配布)
	4限目	保育実習指導Ⅰ②	保育所実習Ⅰについて(保健関係を含む)
4月10日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ③	実習日誌について(1)
	2限目	保育実習指導Ⅰ④	実習日誌について(2)
4月17日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑤	設定保育について
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑥	指導案について(1)
4月24日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑦	指導案について(2)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑧	教材研究(特別講義)
5月8日(水)	1限目	保育実習指導Ⅰ⑨	実習前の準備と留意点(腸内細菌検査結果配布・容器配布)
	2限目	保育実習指導Ⅰ⑩	先輩から学ぶ(特別講義)
5月13日(月)～5月24日(金) 保育実習Ⅰ(保育所実習Ⅰ)			

図っている。

実際の保育を進めていくためには、担当する子どもの姿（年齢・発達・生活や遊びの様子等）にあわせてねらいと活動（遊び）を設定し、その活動がよりよく展開されるよう適切な環境構成や援助について、子どもの姿を予想しながら計画する必要がある。特に、「予想される子どもの姿」を予想することが保育経験の未熟な学生にはかなり難しいことも指摘されている。

指導案を添削する際に私が重視するのは、保育場面がありありと浮かぶかどうかである。つまり、学生の頭の中に、子どもと保育士（学生自身）とのやりとりがリアルに描けているかが重要である。また、指導案は、実習生にとって設定保育を行うためのシミュレーション的な役割を果たしている。それは、実際の子どもの姿を思い浮かべながら、活動の導入や終末、年齢に合わせた言葉かけ、教材の提示の仕方、絵本等の保育教材技術、子どもを取り巻く保育環境の構成等、全てを含め保育場面全体を総合的に捉えることである。保育場面をイメージしながら指導案を立案し、修正を重ねてから本番を迎える。言い換えれば、「指導案＝保育の実際」なのである。

つまり、指導案は保育の総合的理解がなされてこそ書けるものである。だからこそ、指導回数は日誌と同様に2019年度も引き続き2回を維持している。8月の保育実習Ⅱでは、実習生が保育を進めていく全日実習が課せられ、朝の登園から夕方の降園までの指導案を書くこととなる。指導案の指導は保育現場からも強く求められていることから、今後も改善・充実を図っていく必要がある。

3) 今後の展望

こうして振り返ると、本学の保育実習指導は、保育の実際を理解させながら、実習生が実習日誌や指導案を具体的に書けるような指導を充実させてきた。つまり、保育場面を文字化する力の育成とも言えよう。しかし、その土台には実習までに学んできた保育に関する専門科目がある。子どもの発達や保育者の専門性が理解できなければ、保育者から学ぶことも、自分で保育を進めていくことも難しい。今後は、保育実習指導だけではなく保育者養成全体の最適化を考えていくことが求められる。

後注

- ・保育実習の目的（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」より抜粋）
- ・平成30年度 保育実習の手引き（宮城県保育士養成校連絡協議会）
- ・前田有秀（2018）『保育実習における中心活動の実際の子どもの姿と保育指導案との関係』日本保育学会第71回，p.599

経済学における最適化と学びの最適化

講師 横井 渉 央

この文章では経済学における最適化の概念について説明したいと思います。「学びの最適化」